将来は電子黒板などで授業？

東京農工大（小金井市）で電子教材の研究進む

電子黒板で授業を受けて、電子メールで先生の宿題をもらう——未来の教室はこんなようになるかもしれません。東京都小金井市にある東京農工大学の工学部では、学校で役立つコンピューターや電子教材などの研究を進めています。ことしの秋には、市内の東小学校に実験教室がつくられる予定です。

研究をしているのは、工学部の中川正樹教授の研究室です。全国の小学校などにパソコンが置かれるようになってきていますが、「コンやって利用するか」ということになると、まだ問題があります。研究室では、子どもたちが楽しくパソコン学習をするための機器などを開発しています。

中川正樹先生の研究室で開発された電子黒板＝東京都小金井市の東京農工大学で

秋には小学校に実験教室

中川先生たちが考えたもののひとつが、「電子黒板」。いまある小学校などのコンピューター室は、子どもたちが自分のパソコン画面を見てしまい、前にいる先生の方に注目が集まりません。そこで、パソコンの画面を黒板の大きさにして、みんなで同じ画面を見ようというのです。

電子黒板の大きさは、たて一メートル、横一・三メートル。パソコンと同じようにインターネットの画面などを表示できるほか、特殊のペンを使って、手で文字を書きこむこともできます。書きこんだ文字を、活字に変換することもできます。手書きの文字をそのまま見ることができる電子メールも開発しました。

また、府中市の小学校のパソコンを使った授業に大学院生がアシスタントとして参加し、先生といっしょに算数や国語の教材用ソフトをつくるなどの活動もつづけています。将来はこうしたソフトをインターネット上に紹介し、だれでも無料で使えるようにしたい考えです。

現在、東小学校に電子黒板などをそなえた実験教室をつくる準備が進められています。完成は、ことしの秋の予定です。中川先生は「コンピューターが好きになるか、きらいになるかは、初めてさわったときの印象が大きい。ひとりでも多くの子どもたちに『コンピューターってすごいな』と思ってもらえる道具をつくっていきたいですね」と話しています。

（関根　薫）

キリスト
SEI
6
聖